

●世界鐵鋼業の前途 歐洲戰爭勃發以來異常の發展

を告げたる我製鐵事業は經濟事業の平和化と共に反動的な
況を具現するに至れり然らば我製鐵事業の將來如何蓋し之
が研究を爲さんとするに當りては一方海外諸國に於ける斯
界の大勢を見ざる可からず。

英國 先づ之を英國に就いて見るに同國の製鐵事業は一
般産業と共に戰後の恢復に努め今や其成績顯著なるものあ
り即ち本年一月以降六月に至る半期の銑鐵產出額を示せば
左の如し。(單位噸)

月別	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月
產 額	六六五、〇〇〇	六四五、〇〇〇	六九九、〇〇〇	六七一、〇〇〇	七三九、〇〇〇	七二六、〇〇〇

以上の如く本年三月以降に於ける激増は昨年中の月平均
產額六十一萬七千噸に比較すれば著るしき増加なりと雖も
之を千九百十八年に於ける月平均產額たる七十五萬六千噸
に對照すれば休戰以來のレコードとせらるゝ本年五月の產
出額たる七十三萬九千噸も未だ充分の恢復と見る可らざる
が兎に角英國銑鐵業が着々として恢復の期に向ひつゝある
を察知するに足るべし又同國の鋼塊及鑄物の產出額を示せ
ば左の如し。(單位噸)

月別	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月
本 年	七五四、〇〇〇	七九八、〇〇〇	八四〇、〇〇〇	七九四、〇〇〇	八四六、〇〇〇	八四五、〇〇〇
昨 年	七一八、〇〇〇	七三四、〇〇〇	七五八、〇〇〇	六六八、〇〇〇	七七五、〇〇〇	六三一、〇〇〇

斯く昨年のレコードたる五月の七十七萬五千噸を突破し
更らに三月に入りて八十四萬噸に達せるが如きは注目し値
す可き事なりとす而も鋼塊產出額は銑鐵の產出に比し遙に
大にして若し此趨勢を繼續するに於ては本年に於ける英國
の鋼塊は千九百十三年の七百十六萬四千噸を突破するのみ
ならず千九百十八年の九百五十九萬一千噸をも超過するに
至るならん斯くの如く銑鐵鋼塊及鑄物に於て稀有のレコー
ドを示したるも此後果して此盛況を繼續す可きや否やは甚
だ疑問なり何となれば石炭の消長は製鐵業に極めて密接な
關係を有し其石炭の昨年末に於ける出炭能率は著しく減
退しつゝあるを以て也假りに本年の出炭量を昨年と大差な
きものとするも鋼類の產額が必ずしも此趨勢を持続す可し
とは斷じ難きが如し。

獨逸 更に獨逸の鋼鐵業を見るに獨逸ラインは歐洲大戰
亂に依り西部の重要な地方を佛國に割讓せる結果リヒネ
西岸に於て熔鑄爐四割製鋼工場三割延壓工場二割八分を失
ひ其の製鋼鐵事業に甚大なる打撃を受け遂に世界銑鐵產國
として第一位を米國に第二位を英國に與へ自國は第三位を

占むる過ぎざるに至れり而して獨逸政府は現に製鐵製産能力の七割を保留し即ち講和條約を嚴守するものとして理論上年額千三百萬乃至千四百萬噸の銑鐵を製産し得ると稱するも實際は目下年額七百萬噸を製産し得るに過ぎず而して其鐵鋼の七割七分はロートリンゲン割讓に依り失はれたるも目下尙ほ炭鑛の三分の二を保有し居るを以て曩頃佛國と其鑛石一噸半に對し獨逸コークス一噸の割合即ち日々八百二十五噸の鐵鑛石に對し六千五百噸のコークスを積出す可き商談中なりしが未だ其成立せしや否やの報に接せざるを以て茲に判斷を下し難きも蓋し獨逸鋼鐵事業の將來は實に此成否如何に依つて決定す可しと觀測せられつゝあり。

佛國 一千九百十年世界地質會議に於て發表せられたる所に依れば獨逸の鐵鑛量總計三十六億噸に對し、佛國は十三億噸、可能銑鐵量に於て獨逸は十二億七千萬噸、佛國は十一億四千萬噸なりしが、其後佛國に於ては新鑛發見の爲め全鑛量約四十億噸に増加し其上大戰の結果ローレンが佛領に屬したるを以て佛國の全鑛量は一躍五十五億噸を算するに至り米國に次ぐ世界第二位の鐵鑛國となれり然れども鐵鑛を熔化して銑鐵を製造する迄に要する石炭の數量之に伴はず殊に現在にてはノルド及バスカレイ炭鑛地方の殆ど總ての炭坑は獨逸軍の爲めに根本より破壊せられ爲めに佛國の出炭量は戰前の六割を失ふに至れり而して佛國は平和會議の結果右損害の賠償としてザール炭田の出炭を獲得し

九一六

たるが尙ほ十年間に二千萬噸の不足を告ぐる状態に在り右炭坑の復舊にも向後少くとも二ケ年を要すと云へり又今回佛領となれるローレンは鎔鑛爐六十基、轉爐二十五基平爐十基を有し何れも比較的小部分の修繕を以て使用するに足るの狀態に在るも戰前製造工業用石炭消費量は六千四百萬噸にて其内約四千萬噸は自國の供給に依り其不足額は獨逸白國英國等より輸入を仰ぎたるも、戰後ローレン鐵鑛の自國の有に歸したるを以て其製鍊に要する石炭六千萬噸に對し同地方より出炭量三百萬噸とザール炭の千七百萬噸を差引けばローレンの需要のみにて尙四千萬噸の不足を生ずるを以て佛國炭量の將來は實に八千萬噸の不足を生ずる勘定也加之戰前コークスの使用量一千二百五十萬噸の内約半數を他國に供給を仰ぎ居たるに加へ全不足額一千一百五十萬噸となる此不足額を填補するが爲前記の如く佛國の鐵一噸半を獨逸のコークス一噸と交換することゝなれるが最近の報道に依れば其結果は思はしからざるものゝ如く爲に一方英吉利軍務大臣と交渉の結果英國アダム炭と佛國の銑鐵と交換する事となれりと傳へらる斯くて佛國將來の製鐵計畫は戰前の鐵鑛量二千二百萬噸に對し今後四千三百萬噸となり其製銑量戰前の五百萬噸に對し今後一千萬噸となり鋼材に於て戰前の五百萬噸に對し八百萬噸となり即ち同國は米國に次ぐ製鐵國として優に二百萬噸を國外に輸出し得べき計算なれど之れ單に能力ありと謂ふに過ぎずして之が實

現は頗る疑問に屬せり。

米國 更に之を米國に就いて見るに同國の銑鐵生産高は千九百七年迄長足の進歩を以て増加したるが同年の恐慌に際し製鐵業は甚大なる打撃を蒙り工場の閉鎖相繼で起る状態にして百弗拂込のユー・エス・スチール社株の如きは十四弗見當に低落せる事實に徴し當時の事情を推測し得らる而して千九百八年には千五百九十三萬六千八百八十八噸即ち前年に比し九百八十四萬五千三百四十三噸の減少を來したるが其後漸次恢復して千九百十三年には三千萬噸を突破せり然るに十四年には世界的財界不況に依り減退の傾向を呈し以來歐洲戰爭の開始せらるゝ迄大體變化なき狀態を持續し而して此戰爭開始せらるゝや一時金融の梗塞を來し經濟界に一波瀾を生じユー・エス・スチール株は五十五弗より三十五弗見當に下押を見る有様にて工場の閉鎖及操業短縮等行はれ斯界の甚だしき混亂狀態に陥りしが千九百十五年の夏頃より歐洲戰爭も愈長引く可き見込立ち之が爲め軍需品の需要俄然として起り一方歐洲向輸出の必要を生ずると共に從來歐洲より供給を受け居りし東洋向の需要が米國に移りたる等の事情に因り茲に米國の製鐵事業は一轉して殷盛を來し一旦閉鎖したる工場も俄に修繕して火を入れ以て擴張に擴張を重ねたり然るに戰時中米國の製鐵業者が最も困難したる所は運輸の不如意に在り即ち鑛石の運輸殊に燃料を得るに苦しみ冬期は之に加へて天然瓦斯の發生空しく工場を

鎖閉せざる可らざる状態なりき之に對し政府は極力救濟方法を講じ克く其調節を圖り必要に應じては石炭の價格を指定し一般國民生活の保障と國家經濟の發展助長に努力したる結果戰時工業の目的を達し千九百十八年工業動員の行はるゝに際しては最も廉價なる軍需品を製造するの域に達し而して同年中の銑鐵生産高は實に三千九百五萬四千六百四十四噸と云ふ未曾有のレコードを作るに至れり、斯くして米國の製鐵業は空前の大盛況を呈するに至りたるが千九百十八年末休戰條約締結と共に東洋市場に於ける鐵價の暴落を來し從つて此の方面の注文減退し且つ軍需品の需要亦減少せるを以て自然其生産縮少の傾向を生じたりしが更に平時需要を喚起し引續き殷盛を來せしも九月以來のストライキの爲生産激減し即ち千九百十八年に於て三千九百五萬四千六百四十四噸なりしもの千九百十九年には三千百萬噸に減少せり茲に千九百十年以降に於ける生産高を示せば左の如し。(單位噸)

年次	一ヶ年生産高	年次	一ヶ年生産高
千九百十年	一三、七八九、二四二	同 八年	一五、九三六、〇一八
同 一年	一五、八七八、三五四	同 九年	二五、七九五、四七一
同 二年	一七、八〇二、三〇七	同 一〇年	二七、三〇三、五六七
同 三年	二八、〇〇九、二五二	同 一一年	二三、六四九、五四〇
同 四年	一六、四九七、〇三三	同 一二年	二九、七二六、九三七
同 五年	二二、九九二、三八〇	同 一三年	三〇、九六六、一五二
同 六年	二五、三〇七、一九一	同 一四年	二三、三三二、二四四
同 七年	二五、七八一、三六一	同 一五年	二九、九一六、二一三

同十六年	二九、四三四、七九七	同十八年	三九、〇五四、六四四
同十七年	二八、六二一、二一六	同十九年	三一、〇〇〇、〇〇〇

而して現在同國に於ける鐵材需要の主なるものは鐵道用品也即ち戰時中修業を怠りたるものに對する改修は甚だ急を訴へ居るが如く既にユー・エス・スチール社の如き常に一千餘萬噸の注文殘高を控へ居るが故に全米國を通ずる時は尠くも二千萬噸を下らざる可く尙引續き諸種の注文入込み居り一方ストライキも平常に歸したれば昨年に於て前年に比し八百餘萬噸を減少したる形勢は再び盛返し氣味となり即ち本年一月以降五月迄の銑鐵生産高を前年同期に對比すれば八十七萬九千六百九十噸の増加を示すに至れり其内譯をせば左の如し。(單位噸)

月次	本年	昨年
一月	三、〇一五、一八一	三、三〇二、二六〇
二月	二、九七八、八七九	二、九四〇、一六八
三月	三、〇七五、九〇七	三、〇九〇、二四三
四月	二、七三九、七九七	二、四七八、二一八
五月	二、九八八、八八一	二、一〇八、〇六六
合計	一四、七九八、六四五	一三、九一八、九五五

此事實に依りて同國の製鐵業を見れば先づ當分現在の盛況持續の途を辿るならん更に生産費關係を見るに鑛石及燃料共に比較的容易に得られ殊に機械力を充分に利用して人手を借る事を極度に節約し居るが爲め勞働賃銀の昇騰は其製品の上に著しく影響を及ぼさず蓋し局外者の想像より餘程低廉に生産し得るゝが如し昨今銑鐵の相場は四十二弗

内外を唱ふるも生産費に至つては恐らく二十五弗乃至三十弗見當ならんか而も製鋼所の多くは自ら銑鐵爐を所持し銑鐵と共に鋼鐵を製造せるを以て我國の如く各別となれる工場に比し工費頗る低廉にして製鋼一噸五十弗内外にて生産し得るゝが如く之を我國銑鐵百圓乃至百二十圓鋼二百圓以上の生産費に比し約半額也。歐洲の秩序未だ恢復するに至らず獨逸及白耳義等が昔日の如く低廉なる鐵鋼を供給し得られずとすれば勢ひ海外の需要は米國に向つて發せらるべく尤も戰時中の如く緊急の需要起らずとするも需要斯くの如しとすれば今後甚だしく低下する事無からん、兎に角世界製鐵國として米國の地位は第一位に在るが故に同國の現狀及將來に對しては深甚なる注意を拂はざる可らず茲に世界一ヶ年の銑鐵生産高と米國の生産高とを對比すれば左の如し。(單位噸)

年次	世界生産高	米國生産高
一八五〇年	四、四〇一、四一五	五六三、七五五
一八九〇年	二、六九九、四〇四	九、二〇二、七〇三
一九〇〇年	四〇、一八一、八六五	一三、七八九、二四二
一九一〇年	六五、四七二、九一八	二七、三〇三、三六七
一九一三年	七七、七一四、四一七	三〇、〇六六、一五一
一九一七年	七〇、三九八、九〇五	三八、六二一、二一六

右表の如く最近に至り米國の生産高は世界總生産高の約半額を占むるに至れり更に之を英國獨逸及佛國の生産高に對比すれば左の如し。(單位千噸)